

# やさしい、風

編集：ボランティアコーディネーター 川井 恵子・中村 由佳 協力：キートスボランティアさん達

## 第1回 ボランティア養成講座

11月2日(水)に、講師 安藤雄太さんにおいで頂き「ボランティア活動を始めるとあって～あなたの“ち・か・ら”が地域を支えます～」というテーマで、お話を頂きました。

参加者の皆様からは、大変分かりやすく聞きやすかったと好評でした。

### 講義の内容

- 多様化する地域ニーズ (ニーズは複合な関係)
- ボランティア活動とは (Volunteer)  
ボランティアの語源は、ラテン語の「volo」で、志す、進んで行動する意味
- ボランティア活動の基本的考え方  
(従来のボランティア活動の役割)
- ボランティア活動の基本的考え方  
(ボランティア活動の4つの基本的ポイント)
- ①自主性 他から強制されたり、義務としてではなく自分の意思でおこなう活動です
- ②社会性・連帯性 誰もがいきいきと豊かに暮らしていけるように、お互いに支え合い、学びあう活動です。
- ③無償性・無給性 金銭的な報酬を期待して行う活動ではありません。



安藤 雄太氏  
法政大学現代福祉学部兼任講師  
東京ボランティア・市民活動センターアドバイザー

でも、お金では得られない出会いや発見、感動、喜びをえることができます。

④創造性・先駆性 何が必要とされているのかを考えながら、よりよい社会を市民の手で創る活動です。

○ボランティア活動を年代別にみる。

1960～70年代 ボランティア活動の黎明期・1980年代 NGOによる国際支援活動・1990～2000年

○ボランティアの心 共に考え、共に学び、共に生活しあうこと

○多様なボランティア活動とのネットワークが求められている

○多様なニーズに取り組むグループ・法人

○ボランティア活動をする時の8か条

- |                    |                         |
|--------------------|-------------------------|
| ①活動先のミッションを尊重する    | ②約束ごとを確認し守ること           |
| ③無理しないでできることから     | ④自分の意見や想いを大切に           |
| ⑤人との出会いを大切に協調性をもって | ⑥活動中の知り得た情報・プライバシーは厳守する |
| ⑦緊急事態、危機管理の心構えを    | ⑧市民社会の一員として             |

ボランティア活動は、自分たちの生活を、地域を、見直すため

(ち) 知恵を使って (か) 力を出し合って (ら) 良い社会を 創る活動



ヘルシンキ市のウスペンスキー寺院

至誠ホームでは毎年フィンランドの福祉施設と交換研修を行っています。今年は8月26日から3週間、錦の特養生活アクティビティ 笈川副主任と共に行かせて頂きました。

フィンランドは北ヨーロッパにあり、首都はヘルシンキで人口は約540万人の国です。日本からは飛行機で8~9時間ほどかかり日本との時差は7時間（夏は6時間）あります。公用語はフィンランド語とスウェーデン語で標識には2つの国の言葉で記載され、世界的に見ても教育水準が高い国です。また、コーヒーの消費量が世界1位、アイスクリームの消費量が欧州1位と言われています。実際にフィンランドのスーパーにはコーヒーとアイスクリーム、乳製品が豊富にありどれを購入して良いのか迷うほどでした。

フィンランドの介護について紹介します。私の印象としてはその人の能力に見合った介護を行っていて、ベッド上で主に生活している人、歩行器や車椅子で自由に過ごしている人など様々に生活を送っていました。また、介護にはリフトやストレッチャーを使用し福祉用具が身近にありました。リハビリも積極的に行われ活動の中にもリハビリが組み込まれていました。大きなバルコニーや庭には日光浴ができ、認知症ケアには回想法を利用したメモリアルームがあり広大なスペースを大いに活用していました。日本とは制度や文化、価値観は違いますが共感することもあるれば、違いに驚くことも多くありました。



入居者の方と仲良く記念撮影

出来ることは自分でしたいという根底がフィンランドにはあるのだと思います。職員もその人の能力を見極めて介護していました。フィンランドの施設で介護をしている時のことです。ベッド上での生活を主にしている人が身体の位置を上を上げようとしているとき、私は身体を上を上げようと手を貸そうとしたところ職員に止められました。「この人は自分の力で体の位置を替えられるの。」と、その人は足の力を使ってゆっくり時間をかけて枕の位置まで身体を伸ばしていました。

当たり前のことかもしれませんが能力を活用しようとする姿勢にはっとしました。出来ることに対して親切心(?)や時間や効率で介護をしてしまうのは能力を奪うことです。「居るのなら手を貸してくれば良いのに…」とも思われるかもしれません。その場は感謝されるかもしれませんが、その人の今後を

考えるとどうでしょう。

時間はかかるかもしれませんが、その人が持っている能力を維持できて、ゆとりがもてる介護を日本でも心がけていきたいと思ひます。



お庭で一緒にコーヒーを飲みました



近所の乗馬クラブまで入居者の方達と馬を見に行った時の写真

忙しい仕事の合間に執筆下さった小熊職員、有難うございました。